

鶴ヶ島は人を、暮らしを、地域を元気にする

市の特性と今後の課題

鶴ヶ島市は、埼玉県のほぼ中央に位置しています。面積は17・73km²の小さな市ですが、関越自動車道と首都圏中央連絡自動車道が交差し、それぞれにインターチェンジがある地の利の良いまちです。また、市街地の約半分では土地区画整理事業が行われ、整然とした居住空間が広がっています。一方で市の西部地域には、雑木林や農地などといった武蔵野の原風景が残されています。

歴史的に見ると、明治時代に鶴ヶ島村が誕生して以来、ほかの自治体と合併することなく、村から町へ、そして市へと発展してきました。とりわけ昭和50年代には、東京のベッドタウンとして郊外化が進み、急速に人口も増加しました。

こうしたことから、かつて本市は、全国的にも平均年齢の若い市でした。しかし今後は、急速に高齢化が進むことが予測されます。生産年齢人口の減少と社会保障費の負担増は、地域社会の活力低下といった事態をもたらすことも懸念されます。このため、これからのまちづくりは、急速に進む高齢化を前提として、課題の解決に当たらなければなりません。

これまで本市は、就労世代の人口流入とともに活力が生まれ、大きく発展してきました。しかし、近年の人口構成を見ますと、生産年齢人口と年少人口は既に減少を始めており、老年人口が急増しています。今後は、若い人たちを引き付け、持続的な活力を生み出すまちにしていくことが課題となります。

鶴ヶ島の将来像とまちづくり

整備された居住空間、身近に残る自然、優れた交通の利便性、本市は人々が住むのにとっても適しているといえます。この条件を生かして、これまで以上に活力に満ちた安心で住みやすいまちにしたいため、「鶴ヶ島は 人を、暮らしを、地域を 元気にする」「鶴ヶ島にいると元気になる」そんなたくさんの元気があふれるまちづくりを目指しています。「市の特性を生かしながら、地域に働く場所を確保するとともに、人々が集い憩い交流する地域の魅力をつくる」「市内の地域ごとの状況に応じた支え合う仕組みを構築する」など、活力や地域の力が鶴ヶ島の元気を確かなものとしします。

現在、こうした元気を市の将来



毎春、日光街道杉並木で行われる「鶴ヶ島桜まつり」東照宮警護・千人同心のパレード

像とした「第5次鶴ヶ島市総合計画」を策定しています。総合計画は平成23年度からの10年間を計画期間とし、分かりやすく共有しやすいシンプルな目標を掲げ、市民みんなが未来の鶴ヶ島をつくっていく、そんなまちづくりを進めようとしています。

次に、総合計画(基本構想)で掲げるまちづくりを紹介します。

●健やかで安心できるまち

超高齢化しつつある地域の実情を見据え、市民誰もが住み慣れた地域で暮らせる、健やかで安心で

きるまち。健康・福祉・社会保障などは、各担当部門が横断的な連携を図り、施策効果を高めています。また、自然災害、交通事故、犯罪などの危険から市民を守るために、事前の防止策を講じ、災害に強く、事故や犯罪が起こりにくいまちにしていきます。そのため、公民館などを拠点として、市民・関係団体と協働し、地域の実情に応じた「自助・共助・公助」の仕組みを築きます。適切な行政施策と支え合う地域の力をもって、地域

福祉を充実させ、地域の安全を確保していきます。

●活力に満ちたまち

人々が集い、交流し、働き、遊び、住まう、にぎわいと活力に満ちたまち。自治会やNPOなどの市民活動団体と意思の疎通を図りながら、誰もが気軽に地域の活動に参加し、仲間をつくり、活躍できるような、仕組みづくりと場の確保を行います。また、交通の要衝にある本市の立地条件を生かして、新たな経済活動を誘導し、就業機会の確保と、商工業や農業といった地域産業の振興・発展、にぎわい空間づくりを進めます。

●快適に暮らすまち

身近な自然環境が確保され、公園、道路、排水などの生活環境が整備された、市民誰もが快適に暮らせるまち。日々の生活に潤いをもたらす樹林地や水辺は、生物多様性の保全や環境への負荷を減らすという観点からも、重要度が増しています。そのため、市民・関係団体と協働して、貴重な自然環境の保全と整備に取り組みます。また、衛生的で便利な住みやすい生活環境を確保し、地域の特性に応じた手法による均等の取れた都



全国からたくさん見物客が訪れる4年に1度の「脚折雨乞」

プロフィール

- ◆面積 17・73km²
- ◆人口 6万9109人
- ◆世帯数 2万7721世帯

〔将来都市像〕鶴ヶ島は 元気にする
明日につながる活力のまち 支えあう安心のまち

〔まちの特徴〕関越自動車道と首都圏中央連絡自動車道の2つのインターチェンジとジャンクションがある交



鶴ヶ島市長 藤縄善朗



通の要衝にありながら、緑にも恵まれたまち

〔特産品〕お茶、旬の露地野菜

〔観光〕脚折雨乞、高倉獅子舞、高倉菜の花

〔イベント〕鶴ヶ島桜まつり、鶴ヶ島産業まつり、わかば結市

※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。

魅力あふれる豊中 中核市移行で自治の充実をめざす

はじめに

豊中市は大阪府の北部に位置し、昭和11年の市制施行以来、良好な「住宅都市」「教育文化都市」として発展を続けています。市域には、名神高速道路や中国縦貫自動車道、阪神高速道路などの幹線道路が整備されているほか、大阪国際空港も立地する交通の利便性が高いまちです。

日本で初めての出来事も多く、市北東部に位置し、隣接する吹田市にまたがる千里ニュータウンは、昭和37年にまち開きした日本初の大規模ニュータウン。夏の甲子園大会の前身である「全国中等学校優勝野球大会」は大正時代、現在の阪急電鉄豊中駅西側にあった豊中グラウンドで第1回・第2回大会が開催され、「高校野球発祥の地」と

して多くの球児に訪れていたかいています。また、昭和39年に大阪大学豊中キャンパスで出土した全長約7mのマチカネワニの化石は、日本で発見された最初のワニ類の化石として学術的にも貴重なものです。

このほか、市内にある私立梅花学園高校と私立箕面自由学園高校のチアリーダー部が全国大会で常に上位入賞を果たし、テレビ番組でも紹介されるなど、両校の活躍のおかげでチアリーダーングのまぢちとして知られるようになりました。

「救命力世界一」を宣言

平成22年1月に「救命力世界一」を宣言しました。救命講習修了者数(人口に対する割合)や救急隊数、救急救命士数(市域面積に対する割

合)が全国トップレベルとなり、救命率については23・7%(平成17〜20年の4年間の平均)と世界的にも高い水準となっています。

これは、年間300回以上開催している普通救命講習や、従業員の半数以上が同講習を受けた事業所を登録する「市民救命サポーター・ステーション登録事業」などの成果と考えています。

現在はこれらに加え、毎年2万人以上の市民の皆さんに救命講習を受けていただける体制を整え、小学校高学年の児童を対象にした「ジュニア救命サポーター事業」なども推進しています。

大阪国際空港を 活かしたまちづくり

本市と大阪府池田市、兵庫県伊丹市の3市にまたがり、国内約30

大阪国際空港および周辺地域のさなる活性化を目指しています。
中核市への移行に向けて

本市は現在、平成24年4月に中核市へ移行するべく準備を進めています。また、周辺の2市2町(池田市、箕面市、豊能町、能勢町)と共同で、大阪府の持つ教職員人事権の移譲を受けるべく検討を進めています。

無秩序な住宅の建築を防止するため、昭和43年に建築基準法に基づく建築主事を置き、特定行政庁となり、昭和46年には都市計画法に基づく開発許可に関する権限の移譲を受けました。その後も、平成13年4月に特例市の指定を受けるなど、積極的に権限移譲を受け、市民生活の向上を図ってきました。

私は市民生活に密接に係る施策については、市民に最も身近な基礎自治体が行うべきだと考えています。そのため中核市に移行し、権限と責任の下で、自治の充実を図っていきたくと考えています。

また、教職員人事権の移譲が実現すると、地域に愛着を持った人材を採用することができるとともに、地域の実情や課題に応じた教職員の配置や育成などが可能になると考えています。

これらはいずれも、本市の自治基本条例に掲げる「自己決定・自己責任による自治」の確立を目指す取り組みの一つといえます。

これからの10年を見据えて

本市では平成22年12月、平成23年度から32年度までの10年間を見

据えた「第3次総合計画後期基本計画」を策定致しました。この計画は、本市を取り巻く社会経済環境の変化を的確にとらえつつ、人口減少社会に対応し、自律的な都市としての基盤を整備していくという基本方針に沿って、分野横断的に施策を進めていくことを特徴としています。また、市民への説明責任を果たし、計画を着実に進

めるために、進行管理を市民参画の下で実施していこうと考えています。さらに、本年は、市制施行75周年という節目の年を迎えます。三、四半世紀にわたって培ってきた豊かな「市民力」「地域力」を背景に、基本理念である「子どもたちの未来が輝くまちづくり」を進めてまいります。

プロフィール

- ◆ 面積 36・6 km²
- ◆ 人口 38万8904人
- ◆ 世帯数 16万8159世帯

〔将来都市像〕人と地域を世界と未来につなぐまちづくり
〔まちの特徴〕交通の利便性が高い住宅都市・教育文化都市として発展を続けているまち

〔観光〕高校野球メモリアルパーク、日本民家集落博物館(昭和31年に服

部緑地内に設置された日本初の野外博物館。日本各地の代表的な民家を移築復元し、関連民具と合わせて展示されている)

〔イベント〕豊中まつり、芸術文化祭、とよなか産業フェア、とよなか市民環境展、農業祭、豊中市民健康展、消防フェア



大阪国際空港展望デッキからの眺め



豊中市長 浅利敬一郎



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。



ジュニア救命サポーター講習を受講する小学生

わが

地域資源を生かした元気で 活力あるまちづくりを目指して

大洲市の紹介

ここ大洲市は、愛媛県の南西部、県都松山市から高速道路で40分、42kmの距離に位置します。人口は、約4万8000人。面積は県内では4番目に広く、432km²ほどあります。

市の中心部には県下最大の一級河川「肱川」が蛇行して流れ、瀬戸内海に注ぎます。この地域は、明治期まで肱川を利用した水運が盛んで、江戸時代初期までは港を意



名城100選にも選ばれた肱川に映る「大洲城」

味する「津」という文字を用い、大洲を「大津」と称していました。

この肱川では夏になると幻想的な篝火の下「観光うかい」が催されます。観光うかいとしては全国で最長の2.7kmをゆったりと川下りしながら、「鵜飼」(鵜に川魚を捕まえさせる漁法)を楽しむことができます。また、観光うかいは普通、夜に行われるものですが、見る機会を増やし活性化を図ろうと平成22年から「昼うかい」を始めました。涼しい川風に吹かれながら、夜とは趣の異なるうかいが楽しめるという好評です。

大洲藩と「いろは丸事件」

藩政時代の大洲は、肱川の恵みによって、伊予大洲藩六万石の城下町として栄えました。大洲藩主加藤氏の居城、大洲城は肱川のほとりの

小高い丘に築かれ、往時は、四層四階の天守が勇壮に聳えていました。惜しくも明治期に取り壊されてしまいました。その後、天守復元の機運が高まり、平成16年に古写真などの資料を基に木造の天守を復元しました。普通通りに復元した天守は名城100選にも選ばれ、肱川に映し出されるその雄姿は、悠久の歴史を感じさせてくれます。

さて、この大洲藩がNHK大河ドラマ「龍馬伝」に登場したのを皆さんご存じでしょうか？

幕末の大洲藩は藩力を高めようと長崎に向き、そこで「いろは丸」という蒸気船を購入します。しかし、当時の藩士には運航の技術がなく、やむなく坂本龍馬率いる海援隊に貸し出すこととなります。海援隊は「いろは丸」を使って海運業を成功させようとしますが、現在の広島県



新たな試みとして平成22年から始めた「昼うかい」

での通説を覆す新事実が明らかになった一方で、新たな謎も生まれてきました。「大洲歴史探訪館」でこれらの展示を行っています。このようなちょっとした出来事もまちづくりの素材には欠かせません。

元気で活力ある まちづくりを目指して

私は、平成21年9月に初当選して以来、市内の企業訪問を続けています。実際に足を運び、現場を見て、直接話を聞くことで、企業のニーズを的確に把握し、地域の活性化のために行政として何か応援できることはないか探っています。

また、平成22年度からは、新規事業として「がんばる人応援事業」



発見された「いろは丸」の契約書(平成22年4月の記者発表の様子)

を創設しました。これは、地域を元気にするために頑張っている人や団体を応援するために最大で事業費の9割を補助する制度です。

住民・企業・行政が一体となって協力し合い、多様な地域資源を有効に活用し、それをうまく情報発信することで交流人口を増やしていく。私は、これが今地域として自らが取り組むことのできる地域の活性化策ではないかと考えます。

そして、これらの成果を試すイベントとして平成22年12月に初めての試みとなる「大洲産業フェスタ」を開催しました。このイベントは、まず住民の皆さんに大洲のいいものを知ってもらいたい!というところで企画しました。「大洲のええモン 来て!見て!知って!」を合言葉に、市内の57の企業や団体の皆さんが自社の目玉商品や特産品を各ブースで紹介しました。

「私たちが何気なく通り過ぎるあの工場、あのお店、入ったことがないけど何が作られているのだろう?」「実は、あの有名な商品はこんなに身近で作られていた」「今まで話には聞いていたけど、実際に食べてみるとこんなにおいしかった」

プロフィール

- ◆ 面積 432.20km²
- ◆ 人口 4万8485人
- ◆ 世帯数 2万184世帯

〔将来都市像〕きらめき創造 大洲市
くみともあひ ささえあう 肱川流域都市

〔まちの特徴〕一級河川「肱川」が市の中心部を貫流する流域都市で、藩政時代には六万石の城下町として栄えた、自然豊かな歴史あるまち

〔市町村合併〕平成17年1月11日、大洲市、長浜町、肱川町、河辺村の4市町村が合併。



大洲市長 清水 裕

ました。予想以上の盛況で8500人の来場をいただきました。来場者の一人一人が新しい広告塔となって「大洲のええモン」を外へと情報発信していただけることを願っています。

歴史あり、自然あり、特産品ありと豊富な地域資源を持つ大洲市。これからも元気で活力あるまちづくりに一生懸命取り組んでまいります。

〔特産品〕シイタケ、クリ、長浜フグ、アユ、肱川ラーメン、志ぐれ(和菓子)、醤油、味噌、地酒

〔観光〕大洲城、臥龍山荘、大洲まちなかの駅「あさもや」、肱川あらし、白滝公園、小藪温泉道の駅「清流の里ひじかわ」、龍馬脱藩の道、河辺ふるさと宿

〔イベント〕しゃくなげまつり、つづじまつり、うかい、ドラゴンボート大会、ながはま赤橋夏まつり、大洲川まつり花火大会、えひめYOSAKOI祭り、いもたぎ、るり姫まつり、大洲産業フェスタ、大洲市寒中水泳大会



※面積は国土地理院「全国都道府県市区町村別面積調」に、人口・世帯数は「住民基本台帳」による。